


学 校 名	宮崎市立大塚小学校				
活動・行事名	アイマスク体験	対 象	第5学年	参加者	157名
活動・行事のねらい	視覚障害者やヘルパーさん、ボランティアアドバイザーの話の聞いたり、アイマスク体験をしたりすることで、相手の気持ちや立場を尊重しながら、誰に対しても思いやりの気持ちをもって接しようとする態度を育てる。				
活動までの準備や事前指導	1 昨年の活動の反省をふまえ、学年で、期日と内容を検討する。 2 宮崎市ボランティアセンターに講師依頼と器具借用のお願いに行く。 (事前に電話で、実施日が可能かどうかの相談をしておく。) 3 前日に器具(アイマスク・白杖)を借りておく。 <b>【児童への事前指導】</b> ○ 本やビデオなどで、視覚障害者について学習しておく。 ○ 教室や廊下で、目を閉じて歩かせ、視覚障害者の気持ちを少し体験させておく。 ○ アイマスク体験をする際の心構えを話し合っておく。				
活 動 の 内 容					
・ ・ ・ ・ ・ 体験活動は、2クラスごとに2単位時間で実施した。 ・ ・ ・ ・ ・					
☆ 事前に体験場所の準備をしておく。(体験コースを拡大コピーしておくと言明の時に役立つ) 1 始めのことば(担任) 2 講師の紹介(担任)～事前にそうしの方々の名前を聞いておく。 3 視覚障害者の福祉講話を聞く。 (内容:障害者になったきっかけ・苦労していること・みんなに期待していること等) 4 ヘルパーさんの福祉講話を聞く。(ヘルパーさんになろうと思った理由・気をつけていること等) 5 アイマスク体験の仕方を聞く。(ボランティアアドバイザー・担任) 6 アイマスク体験をする。(二人一組で) 7 お礼のことば(各学級代表1名) 8 終わりのことば(担任)					
《体験活動終了後》・・・教室にもどって ○ 講師の方々へのお礼の手紙を書く。(感想も含めて) ※ お礼の手紙は、3人の講師の方々へ届くように、学級を3グループに分けて書かせ、学年で3名ごとに分けて綴り、宮崎市ボランティアセンターに届け、渡していただいた。					
成 果 と 課 題					
児童は、実際に視覚障害者の方から直接体験談を聞くことで、障害者への偏見が薄らいだと思う。 また、アイマスク体験を経験することで、障害のある方の不便さや介助の仕方が分かり、「障害者と出会ったら、勇気を出して肩をポンポンとたたきながら、進んで声をかけ、手助けしたい。」という感想を多くの児童が書いていた。 学校生活でも友達に優しく接したり、進んで手助けしたりする姿が見られるようになった。 来年度は、さらに体験のコースなどを工夫して、よりよいものにしていきたい。					
(跳び箱の段差を使って体験しているところ)					